

県知事による「対話と実行脚」

5月9日(木)、令和元年度第1回「対話と実行脚」が行われ、尾崎正直県知事が来町しました。

この取組は、知事が地域の現場に赴き、住民との対話を通じて地域の強みや実情を把握し、課題や施策について県政に反映させることを目的に行われています。

総合センターで行われた「地域住民との意見交換会」では、分野から代表者が出席し、活動内容や今後の課題についてを話し、知事が意見や感想を述べました。

参加した自主防災会連絡協議会の森岡健也会長は、「現場の声を直接伝えられることは、とてもいい機会だと思う。これからの活動をより充実したものになりたいという思いも強くなった」と話しました。

県知事は、そのほかにもデイサ



地域住民との意見交換会の様子

ービスセンター浮鞭や農業公社、防災教育の取組などを視察し、現場の声を確認しました。

カツオと鯉のぼりの川渡し

坂折地区の住民による「カツオと鯉のぼりの川渡し」が4月21日(日)から5月11日(土)まで行われました。

同展示は、カツオの町のアピールと子どもたちの健やかな成長を願い、平成13年から坂折地区住民の有志により始められました。

約100匹のカツオのぼりと鯉のぼりが伊与喜川上に渡され、その周辺に手作りの紙の鯉のぼりとTシャツも展示されました。国道56号線や道の駅なぶら土佐佐賀から見える景色に、ゴールデンウィークには多くの人が訪れ、大空を泳ぐカツオのぼりを眺めました。



青空を泳ぐカツオのぼり

道の駅なぶら土佐佐賀に防災設備助成

一般社団法人四国クリエイト協会による「道の駅防災設備整備事業」の助成を受け、道の駅なぶら土佐佐賀に防災設備が贈呈され、上分地区の防災倉庫に納品されました。

同協会は、公益事業の1つとして防災事業を行っており、四国内の道の駅を対象に平成28年度から防災設備の助成を公募しています。

道の駅なぶら土佐佐賀は平成30年度の事業に応募し採択され、高知県では2カ所目の助成となり、3月15日(金)、発電機や非常用給水袋などの設備が納品されました。

4月17日(水)には、本庁で贈呈式が行われ、同協会四万十支所の沖上茂人支所長から、「地域の防



目録を受け取る大西町長(左)

災力向上に役立ててほしい」と大西勝也町長に目録が贈呈されました。

黒潮元気de歌謡ショー

5月11日(土)、ふるさと総合センターで「黒潮元気de歌謡ショー」が行われました。

同イベントは、あったかふれあい事業や子ども食堂などの活動を行う特定非営利活動法人しいのみによって、「さまざまな世代の交流の場となり、地域の皆さんに元気になってほしい」という思いで開催されています。計60名の出演者が歌やダンスで会場を盛り上げ、来場者も手拍子などをしながら楽しめました。

また今回は、地域の団体や、子ども食堂への支援を目的にチャリティー募金が募られました。集落活動センター北郷のお惣菜販売も行われ、来場者に好評でした。

同法人の金子繁昌代表は、「高齢化が進むが、住民で支え合い、住んで良かったと思う町になって



歌とダンスを披露する出演者ら

ほしい。いろいろな世代が集い、楽しむことで皆さんがそんな気持ちになれば嬉しい」と話しました。